

切除が必要な大腸癌肺転移を同定するための基準に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：(2025年9月16日)～2029年3月31日

〔研究課題〕 大腸癌肺転移切除例に対する術後予後予測スコアの構築

〔研究目的〕 これまでの研究で判明した予後に影響すると考えられている術前因子に点数をつけ、その合計で大腸癌肺転移に対する切除手術が必要か判定するシステムを作成します。

〔研究意義〕 これまで大腸癌肺転移は可能な限り切除することが予後を延長させ、逆に切除しない(できない)患者さんの予後は非常に悪いと考えられていました。しかし、最近の研究では切除しなかった患者さんの予後(5年生存率)が想定されるより悪くないことが判明しました。このため、肺転移に対する手術が必要かどうかを区別することは余計な手術をせず、より効率的に大腸癌の治療を受けるために重要なことと考えています。しかし、そうした患者さんを区別するための仕組みはまだ見つかっておらず、今回の研究により患者さんごとに肺転移に対する手術が必要かどうかをより客観的に判別できると考えられます。

〔対象・研究方法〕 本学がデータ収集機関であるレジストリー「転移性肺腫瘍に対する肺切除症例データベース作成のための多施設共同コホート研究」(帝倫 19-013-5 に登録されている転移性肺腫瘍の患者さんのうち、2010年1月1日～2019年12月31日の間に大腸癌による転移性肺腫瘍で肺切除術を施行された患者さんについて、腫瘍の状態や手術状況に関するデータについて分析を行います。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕 本研究で得られたすべてのデータは他の情報との照合なしに個人を同定できない形に加工したうえで解析されます。本学では、研究終了後にデータセットのコピー等を倫理委員会事務局に提出し、10年保管後に廃棄します。対象患者さんがデータ使用拒否を申し出た場合、情報は速やかに削除します

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名	高橋光	職名	臨床助手
研究分担者:氏名	坂尾幸則	職名	教授
研究分担者:氏名	齋藤雄一	職名	准教授
研究分担者:氏名	山内良兼	職名	准教授

所属： 帝京大学医学部外科学講座
住所： 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表)